



おいちよう

令和2年 5月 1日

発行 鶴瀬小学校No.1

049-251-0144・0149

文責：校長 松波徳美

学校教育目標 **かしこく《学ぶ》 やさしく《和す》 たくましく《鍛える》**

鶴っ子のめあて

にこにこ

きびきび

ぴかぴか



「心のあたたかさを伝える波に」

— 負の波にのまれぬように —

令和2年度が始まりはしたものの、まだ子どもたちにはほとんど会うことができいていません。人に会うこと自体に自粛を強いられることが、これほど苦痛であるとは想像していませんでした。家にいることを強いられている子どもたちにとっては、なおのことストレスがたまる3月、4月だったことと思います。さらに1ヶ月の休校が決まりました。まだまだ、新型コロナウイルスの感染拡大が止まない現状を考えると、仕方がない決断だと思わざるを得ません。

ただ、5月の休校は、6月からの学校再開を明確に意識した、1ヶ月にしたと考えています。今までこちらからメール等で課題を配信するだけでしたが、今月は子どもたちの学習の成果を確認することを計画しています。しかし、人に会うリスクを減らすための休校措置で有りながら、課題等の受け渡しをすることに疑問の声をいただくことがあることもあるかと存じます。それには、子どもたち一人一人とのコミュニケーションがとれる方法を工夫して、リスクを減らすことを心がけます。5月11日以降、また、学校便り等を通じて新たなコミュニケーションの方法をご提案したいと思います。メールやホームページで、内容の確認をお願いします。

ところで、毎日新聞の日曜版に海原純子さんという精神科のお医者様が書かれている『新・心のサプリ』というコラムがあるのをご存じですか。4月26日の記事の中で「ネガティブな考えがうかんだ時、その思いをストップさせ、方向をかえるすべを、私たちは習得する必要があるだろう。ほんの一瞬、自分の心を平静に保ち、ネガティブな波にのみ込まれない方法をみつけていくこと、そして人に対するあたたかさを伝える波にかえていくことが今、必要だと思う。」という一説がありました。自分の名前に波がつくので、松の波が、あたたかい波として皆さんに届けられたらと、いつも願っています。まだまだ、苦しいコロナの波が続きますが、一人一人の心がけで、あたたかな波にかえて伝えていきたいものです。

